

日本文学の伝統と現代社会分科会(第 26 期・第 4 回)

議事要旨

出席者:植木朝子、原田範行、吉岡洋、有元伸子、海野圭介、小黑康正、日比嘉高、日向太郎

欠席者:木村勝彦、佐藤利行

日時 令和 7 年 3 月 24 日(月) 10時00分~11 時 05 分

場所 オンライン

記録 海野圭介

(1) 分科会活動の振り返りと意思の表出およびシンポジウム開催の手続きについて(報告)

本分科会の2つの柱を確認し、①に関連するものとして、シンポジウムの開催予定について共有し、②に関しては今後、勉強会を行うことを確認した。

① 他領域との関わり、人間の身体性や行動など多様な視座から文学の意義を伝えること

→シンポジウム開催(藍の学校(吉岡洋先生、<https://ai-no-gakko.kyoto-art.ac.jp/>))との共催)

→現時点で想定しているプログラムは下記の通り。

日時:2026 年 1 月 24 日または 25 日

テーマ:日本文学と藍

講演1 日本古典文学に見る藍 植木朝子

講演2 日本近現代文学に見る藍 有元伸子

鼎談 日本文学、日本美術と藍 吉岡洋・有元伸子・植木朝子

② 情報学などの領域と連携しつつ、デジタル・アーカイブ、データ作成の支援となるような提言を行うこと

→5 月~6 月頃に勉強会を行う予定(担当候補は海野)。

(2) シンポジウム共催の可能性について(確認)

・共催の可能性のあるものについて、今後も情報共有することを確認した。

(3) 意見交換

・日本学術会議自体の状況や今後の分科会活動について意見交換を行った。

(4) その他

第 5 回は 2025 年 6 月開催の予定で調整することとした。